



- 調査実施日 2013年9月
- 調査場所 カヤオ市カルメンデ・ラ・レグア区的一般家庭
- 調査対象 リゴベルトさん一家
- 換算レート 1米ドル≒2.8ソル(ヌエボ・ソル 2013年9月末)



リゴベルトさん一家

家族構成	夫 リゴベルト(仮名)さん (50歳) 妻 (49歳) 長女 (4歳)
世帯収入	月額 900ソル
職業	農園労働者(季節工)
休日	不定。農繁期は週末も含め無休
出身地	カヤオ市

リゴベルトさん (50歳)

職業 農園労働者
月収 900ソル

よく使う交通手段は？
タクシー、乗合バス、乗合ワゴン

休暇の過ごし方は？
休暇が少なく、激務なので家でゆっくり過ごす。

趣味は？
特になし。



買い物スポットは？
買い物は主に妻にまかせている。家電・調度品などは中古市場で調達。

今欲しいものは？
特になし。娘の将来を考えると、今は物よりも教育費を預金することが一番だと考えている。

リマ市とともに首都圏を形成するカヤオ制憲市の新興住宅街に立つ3階建ての共同住宅の2階に親族3家族が同居している。ただし、住宅は祖母の所有で家賃は免除。厳しい家計の大きな助けとなっている。

夫は長年乗合バスの運転手を勤めていたが、昨年失職。農園の季節労働者の職を得たが、勤務が不定期で農繁期は早朝に自宅からバスで2時間の農園に出勤し、帰宅は娘が寝静まった午後10時にもなるため、娘との時間が共有できないのが悩み。

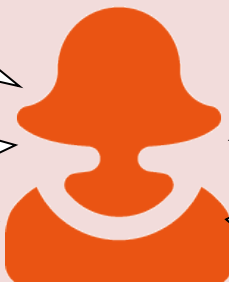
妻 (49歳)

職業 専業主婦
月収 なし

よく使う交通手段は？
乗合バス、乗合ワゴン

休暇の過ごし方は？
家の片付けなど夫に手伝ってもらう。休暇が少ない夫と家族団らん

趣味は？
これといってない



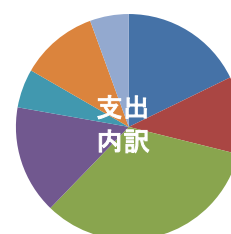
買い物スポットは？
食品、生活雑貨など近所の伝統市場で購入。買い置きはしないのでスーパーには滅多に行かない。

今欲しいものは？
食料(と一言で即答)。娘の将来を考え教育費を預金したい。電化製品に興味はない。

収支内訳



■ 夫収入



■ 水光熱費

■ 教育費

■ 食料費

■ 交通・通信費

■ 日用雑貨・被服

■ 保健医療費

■ その他

住居 祖母所有の集合住宅暮らしで家賃免除



祖母が所有する3階建ての集合住宅の2階部分を3世帯でシェアして暮らしている。広い応接間、ダイニングキッチンが共有部分。リゴベルトさん一家を含む親族3世帯に各1室ずつ寝室が割り当てられている。簡易宿泊施設がイメージに近いかもしれない。なお、このフロアにシャワーは設置されておらず、シャワーを浴びるには祖母が暮らす3階のシャワールームを利用する。共有部分であるダイニングキッチン、トイレ、応接間は清掃も行き届き、きちんと管理されている。娯楽用・台所用の家電の主たるものが完備しており、近代的な市民生活を送る上で充足していることが分かる。

所有の有無	祖母所有の住宅を間借り
間取り	寝室(9㎡)、食堂(4㎡)、応接間(5㎡)
広さ	70㎡(共有部分を含む)
居住年数	10年
電力	90ソル/月(同居親族とシェア)
水道	支線引込み、メーター設置、40ソル/月(同居親族とシェア)、飲用は要煮沸
トイレ	水洗、清潔、適切に管理
シャワー	温水、3階部分に暮らす祖母の住宅のものを使用

テレビ	中古(SONY)、700ソル
冷蔵庫	中古(国産メーカー)(同居親族とシェア)
固定電話	30ソル/月(同居親族とシェア)
携帯電話	中古保有 10ソル/月(ほぼ受信のみ)
洗濯機	なし
コンロ	ガスコンロ(国産、購入額500ソル)
ミキサー	国産、ジュースやソース作りに必須
ステレオ	中古(JVC)、400ソル
DVD	贈答品
電子レンジ	贈答品
炊飯器	なし
掃除機	なし



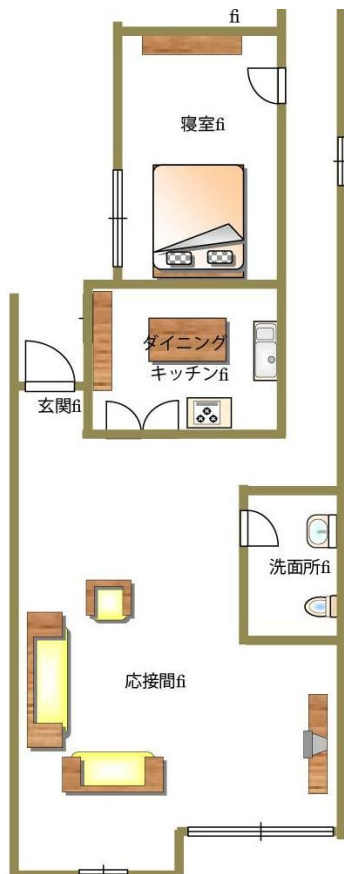
3世帯が共有していることもあってか、きちんと管理されており、清掃も行き届いている。水洗トイレも正常に作動する。石鹸などの生活雑貨も整然と置かれているのが印象的である。



3世帯に寝室が1室ずつ割り当てられている。リゴベルトさん一家の寝室は中央左の扉が開いた部屋である。長い廊下は15mほどある。



24㎡ほどの広い寝室。クローゼット、ベッド、化粧台などいずれもよい素材の製品を使っている。



寝室を別アングルから眺める。洗濯を終えたばかりなので多少雑然としているが、床の状態を見れば、清掃と普段のメンテナンスが行き届いているのが分かる。



3世帯の共有スペースである応接間。ソファセット。いずれも中古ながらオーディオ設備を充実。清掃も行き届いている。



応接間に設置された木製ラックに据えられたオーディオ製品。いずれも中古だが、性能は十分である。上からソニー製のテレビとDVD、下にはJVCのステレオが見える。

食事 夫は勤務先で支給、キッチンがシェアファミリーと共同使用

自宅から 2 時間で休日出勤も多い農園労働者の夫が自宅で食事することは稀。食事は勤務先の農園で支給される。また、朝も午前 6 時に出勤のためパンと紅茶など簡単な食事で済ますという。

一方、専業主婦の妻と幼稚園に通う長女は午前 7 時頃、ごく一般的なパンと牛乳などの朝食をとる。幼稚園通いの娘が帰宅するのは午後 1 時過ぎ。それまで妻は前菜のスープとメインディッシュの昼食を準備するが、ダイニングキッチンと同フロアの 2 世帯と共有しているため、時間差で調理することもあれば、お互いに食材や料理を融通しあうこともしばしばである。

この日は鶏肉と野菜入りの具沢山スープにペルーの国民食とも言える、牛肉とタマネギ、ポテト、トマトを炒めたロモ・サルタードが食卓に上った。

さて、夕食の習慣はペルー人世帯の多くと同様になく、代わりに午後 6 時ごろにロンチェといって、昼食とほぼ同じように、パンにバターとハムまたは菓子パンと牛乳、コーヒー、紅茶などをもって済ませる。

飲料水は水道水を必ず煮沸したうえ、ピッチャーに入れて常温で保存。またはアニスやカモミールなどのハーブティーに砂糖を加えたものを常温で保存して普段の飲用にすることも多い。炭酸飲料は家計面・健康面の両方を勘案して決して購入しない。

外食は夫の仕事は週末・休日出勤も多く不定期なこと、また、子供の将来を考えて預金にまわしていることから減多に行かない。年に数回、近所のペルー名物鳥の炭火焼料理ポヨア・アラ・ブラサの専門店ですぐらい。家族 3 人で鳥 1 羽分 22 ソル。唯一の炭酸飲料を飲む機会でもある。



上:ダイニングキッチンの流し。右:ダイニングキッチンのクローゼット類。笛のついた高品質で機能的なケトルが印象的。補充はしていないもののアルミホイルの空き箱も見える。画面右奥にはどの家庭でもフレッシュジュース作りの必需品であるミキサーが見える。



左上:冷蔵庫は 3 世帯がシェア。買い置きせず、こまめに必要量だけ購入するのでスペースをとらない。右上:高品質のガスレンジ。リゴベルトさんが購入し 3 世帯が共同で使用。右下:国民的料理のロモ・サルタード、下:カモミールなどのハーブティーは一般的に愛飲されている。



左上:各種調味料と調理器具。醤油の小瓶が置かれている。買い置きはせず必要最低限の物を小まめに購入するため、スーパーの大売出しは 3 点以上限定であり、1 点購入の場合は割り得ではないという。例えば食用油(1 リットル)は伝統市場で 1 本 5 ソルのところスーパーは 6 ソル、米は 500g 袋 1 袋が伝統市場で 2.6 ソルのところ、スーパーは 3.5 ソルだと教えてくれた。
左下:紫トウモロコシを煮出して、砂糖を加えた自家製清涼飲料のチチャ・モラダ。



右:リゴベルトさん一家が、夫の休曜日に出かけるという近所の鶏の炭火焼(ポヨア・アラ・ブラサ)専門店。鶏 1 羽分で 22 ソル。醤油などを使った特製タレに漬けこんでから、炭火またはガスバーナーで 30 分ほどじっくりとあぶって調理するこの料理はペルー人に広く好まれる国民的料理。客にサーブする際には、胸肉と腿肉に 4 分割して唐辛子ソースやパセリのオイル漬けなどと同時に食す。付け合せにはポテトフライと野菜サラダが定番。ペルーを代表する炭酸飲料インカコーラを飲みながらの家族団らんを演出するお手軽なレクリエーションであ

時間

平日

	リゴベルトさん	妻	娘
5:00	起床		
6:00	出勤		
7:00		起床、朝食	起床、朝食
8:00			幼稚園に徒歩で通園
9:00			
10:00			
11:00		昼食の準備など	
12:00			
13:00	昼食（職場で支給）		帰宅
14:00		昼食	昼食
15:00			
16:00			
17:00			
18:00	軽食（職場で支給）	軽食	軽食
19:00			
20:00			就寝
21:00		就寝（娘と添い寝）	
22:00	帰宅		
23:00	就寝	就寝（夫の帰りを待つ場合）	

休日（季節労働のため不定期）

	リゴベルトさん	妻	娘
8:00			
9:00			
10:00			
11:00	起床	起床	起床
12:00			
13:00			
14:00	昼食	昼食	昼食
15:00			
16:00			
17:00	軽食	軽食	軽食
18:00			
19:00			
20:00	就寝	就寝	就寝
21:00			

BOP 層が主体の新興住宅地に暮らす都市生活者が、バスで 2 時間かけて近郊の農園で季節労働者として従事していることがまず驚きであった。また、その勤務時間は早朝から夜間に及び、通勤・帰宅時間に 4 時間を要することから、同居しているにも関わらず、娘と遊ぶ時間が少ないとこぼす夫がにじませる生活上の苦悩は、日本の都市生活者にも重なり、ペルー近代化の赤裸々な一面を垣間見るようであった。

家賃免除で住宅を提供している祖母の支援を受けながら質素な家計を切り盛りし、一人娘の将来を案じて教育費を工面しようと預金に努めている現実、ペルーが能力と努力によって経済的自立を実現できる社会に移行する過渡期にあることを如実に示していると言えよう。なお、「今欲しいものは」の質問に対し、妻が「食料」と即答したことが大変印象に残った。生活の質は十分であり、食べ物に困っているわけでもなく、将来を考えて家計をぎりぎりまで切り詰めている主婦の強い意思を感じた。清掃の行き届いた室内、お行儀のよい娘の所作には、ペルーの来るべき明るい未来の息吹を予感させた。

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。